

【水の里の旅コンテスト2015 応募企画】

特定非営利活動法人 土湯温泉観光まちづくり協議会

日本一の清流「荒川」流域の発見の旅

～水と温泉の恵みから生まれる再生可能エネルギー体験ツアー～

観光地域：福島県福島市 土湯温泉

【日程】	1泊2日		
【実施時期】	春・夏・秋（実施時期：3月～11月）		
【催行人員】	20名（最少催行人員：2名）	【お勧めする旅行者層】	子供連れにおすすめ
【旅行代金】	【内 訳】		
	12,950円 (大人1名)	基本宿泊料金 10,000円（平均的価格） 入湯税 150円 体験ツアー参加料 2,000円（資料代、ガイド代、地熱体験料） 消費税 800円	
【企画趣旨】			
<p>土湯温泉は、福島駅から車で40分のところにあり、11の宿泊旅館がある温泉地です。磐梯朝日国立公園内にあり四季折々風光明媚な温泉地です。温泉街の中央には、国土交通省が直轄河川として管理する荒川、東鴉川が流れています。この河川は、5年連続で水質日本一となり、福島市民の憩いの川として多くの方に親しまれています。この荒川流域の上流域には、戦後多くの砂防堰堤が造られ、土石流から多くの住民が守られてきました。砂防堰堤の総数は、約20ヶ所に及び、その中には有形文化財、土木遺産として登録されているものもあり、人と水害の歴史と戦いの姿を知ることができます。さらに、温泉街から上流域には温泉噴気が湧出しており、日頃見ることができない光景を堪能することができます。この地域の温泉は、130～150℃位で温泉蒸気が噴き上がることから、その温泉噴気と周囲の山々から湧出する湧水を加えて温泉を作っています。この温泉の作り方もめずらしく、観光客の皆様に温泉の新しい発見を提供できます。このような形で温泉が作れるのも、森が緑のダムとして地下水を作ってきたことがあるからこそです。</p> <p>東日本大震災後、地震と風評被害により多くの旅館が休業してしまったことから、温泉町の復興再生の旗頭とするべく豊富な水量と砂防堰堤の高低落差を利用した小水力発電（MAX140kw/h）を開始しました。併せて、高温の温泉噴気と抱負な水量を利用したバイナリー発電（MAX400kw/h）も10月に開始予定となっています。これから、両発電事業を教育旅行商品、産業観光旅行商品として本格的に販売していきます。5年前から高温の温泉と噴気を活用した源泉探訪ツアーを開催してきましたが、両発電事業を組み込むことにより、より特徴的な旅行商品を提供できます。水と温泉の恵みがあったればこそできる体験ツアーであることをアピールしていきます。</p>			
【安全確保のための配慮】		【旅行者の満足感を高めるための工夫、快い旅行にするための配慮】	
①必ず講習を積んだガイド同伴が条件 ②旅行傷害保険加入 ③両発電施設見学の際はヘルメット着用		①有形文化財である砂防堰堤を背後にした写真撮影 ②日本でもめずらしいバイナリー発電施設前での写真撮影 ③源泉の温泉での温泉たまご作りと源泉足湯体験 ④温泉熱で栽培しているミラクルフルーツでの驚き体験	
【企画協力（後援）機関・団体名等】	【主な役割】	【企画協力（後援）機関・団体名等】	【主な役割】
①土湯温泉観光協会	宣伝広報	⑤	
②土湯温泉旅館事業協同組合	宿泊受入、送迎	⑥	
③湯遊つちゆ温泉協同組合	温泉施設見学対応	⑦	
④(株)元気アップつちゆ	発電設備の高度的専門ガイド（視察研修等）	⑧	
【特記事項】	二つの発電事業をまじかに見られる観光地は他に無いので、新しいエコニューリズムとして商品化内容を充実させ、日本全国から受け入れる工夫をしていきたい。温泉熱を活用し、好適環境水による養殖業やミラクルフルーツとすっぱいいちごの水耕栽培のコラボ事業などをツアーの魅力を加え、体験度を増すツアーにしていきます。現在でも日本エコニューリズム協会のグッドエコツアーに認定されているツアーです。		
【催行実績】	有り		

【 行 程 表 】				
1日目	13:00 土湯温泉着	14:00 土湯温泉の由来・環境 小水力発電・バイナリー発電の概要説明	14:30 小水力発電模型による発電の仕組み勉強会	④ 15:00 源泉着 ④ 16:30 旅館着（自由行動）
2日目	9:00 旅館発 ④ 11:30	9:30 好適環境水試験養殖水槽見学	④ 10:30 小水力発電施設見学	11:00 東鴉川水力実験と水遊び ※④以外、全行程徒歩
（温泉施設見学、温泉たまご作り・試食体験、ミラクルフルーツ試食体験、源泉足湯、バイナリー発電施設見学）				
観光協会着（解散後自由行動 足湯めぐり・土湯こけし絵づけ・公衆浴場等）				

【 主な観光ポイント（観光地・観光箇所の歴史、由来など） 】

【 温泉街全景 】	【 滝のつり橋と東鴉川砂防堰堤 】	【 つつじ山公園と女沼 】
 <p>国道115号線から温泉街へ入ってくると、一番最初に見える土湯温泉の全景です。 温泉街の中央には、荒川が流れ、その川沿いに11軒の温泉宿が建ち並んでいます。 震災前は15軒ありましたが、4軒が廃業してしまい、現在福島市と都市再生整備事業によりエコ温泉地として復興再生を図っています。 背景は、磐梯朝日国立公園の山並み。</p>	 <p>荒川の支流である東鴉川に架かる「滝のつり橋」とその下にある砂防堰堤です。砂防堰堤はコンクリートむき出しではなく、普通の岩のように作られています。 この吊り橋の上流部に小水力発電施設が体験学習施設も兼ねて設置されています。</p>	 <p>温泉街から徒歩で30分、車で5分のところにあるつつじ山公園（約1万本のつつじが群生）とそこから見える女沼（めぬま）。 さらにその奥には、残雪が残る吾妻小富士が望めます。春の観光シーズンには、ミズバショウやカタクリが咲く群生地を巡る遊歩道も整備されています。秋の紅葉シーズンには、背景の山々は錦に彩られ、絶好の撮影スポットとなっています。</p>
【 土湯温泉共同源泉（2号源泉） 】	【 16号源泉バイナリー発電 】	【 幕滝 】
 <p>温泉街から約3km程度奥にあり、荒川の両岸に4本の源泉と温泉造湯設備が点在している。源泉から噴出する温泉熱水と蒸気をタンクに取り込み、その中に山々から湧き出す湧水を混ぜ合わせ、温泉を作っています。この共同源泉から温泉街に毎分1400Lが送られています。地下から湧き出る温泉は、130℃から150℃と高温であり、16号源泉では、その温泉熱でバイナリー発電を併用して行っています。この源泉では、以前から源泉探訪ツアー又は地熱体験ツアーとして温泉たまご作り体験や蒸し料理体験等を行い、地熱のおもしろさをお客様へ紹介してきました。</p>	 <p>16号源泉を活用したバイナリー発電設備です。発電開始は、平成27年10月からを予定しています。この規模のバイナリー発電は日本でもめずらしく、計画から4年の間に、約2千名と多くの視察者が訪れています。今までは、産業観光の位置づけが強かったが、子供たちへ再生可能エネルギーの教育旅行として、小水力発電とセットして提供し、それに宿泊や講演等を組み込んだパッケージ商品を作っています。なお、バイナリー発電は、ペンタンという液体を温泉熱で温めて、気化したものでタービンを回し電気を起こす仕組みで、同時に温泉も作れます。</p>	 <p>荒川の源流域にある幕滝の滝つぼです。高さ30mから幕のように流れ落ちることから幕滝という名がつけました。夏から秋にかけて、秘境の観光スポットとして人気があります。マイナスイオンも土湯温泉の中で群を抜いており、ストレス解消に最高の滝でもあります。 近くには、秘湯の宿が2軒あり、温泉は白濁した硫黄泉であり、昔から湯治や登山客に根強い人気があります。</p>

【 主な観光ポイント（観光地・観光箇所の歴史、由来など） 】

【 有形文化財・土木遺産 砂防堰堤 】



小水力発電の取水口にあたる東鴉川第3砂防堰堤は、昭和28年に完成し、完成から64年が経過しています。当時の砂防堰堤はこの川の石を加工し、積み上げて作られたもので文化庁の有形文化財として登録されています。当時の土木技術を後世へ残すために土木遺産としても登録されています。また、温泉街の人々を土石流等の自然災害から守るために、砂防堰堤が作られた歴史が感じられます。

小水力発電の仕組みを川からの取水と堰堤の落差を利用した導水管等の構築物で理解しやすい環境にもなっています。

【 小水力発電見学遊歩道 】



小水力発電所の左岸沿いの斜面に、東鴉川と砂防堰堤、発電取水口が見学できる体験遊歩道が設置されています。

子供たちも安心して、高台から各施設を見学できます。

秋は、周囲が一面紅葉に覆われ、紅葉狩りのスポットとしては最適です。

【 東鴉川親水公園 】



土湯温泉観光協会から徒歩5分程度のところにあり、夏の水遊びが楽しめる憩いの公園です。

国土交通省や福島市の支援により整備された公園です。公園内には、足湯も設置されていますが、震災による崩落のため、現在休止中ですが、来年4月頃には再開予定です。

春から秋にかけて土湯温泉に来た際は、朝の朝食前の散歩などには最適のコースです。

【 足湯 「偲いの湯」 】



温泉街に4つある足湯のうちのひとつです。

熊野神社と皇太子妃雅子様が詠まれた歌碑があり、歌碑公園として街の散策にかかせない場所となっています。

温泉街を望める高台にあり、静寂であることからんびりと足湯を楽しめる隠れスポットです。

【 土湯見聞録館 】



温泉街の中心部にあるこけし展示館です。

東北各地のこけしが約1000本展示されています。こけし産地別に展示されているので、各産地との比較をしながら、こけし見学ができます。

土湯こけしは、日本三大こけしのひとつと言われており、温泉街にこけし工人7名がおり、うまくいけば製作実演も見学できます。こけしのお土産も温泉街の店舗で買い求めることができます。また、こけしの絵づけ体験も気軽にできます。

8月からは、このフロアに好適環境水で養殖する水槽が設置されます。この水槽では、トラフグやマダイとキンギョと一緒に泳ぐ姿が見れます。